

令和5年度 支部事業実績報告

日本赤十字社沖縄県支部

支 部 事 業（日本赤十字社沖縄県支部）

- 1． 会員制度の普及促進と財政基盤の強化
- 2． 災害救護事業の強化
- 3． 国際救援活動の推進
- 4． 赤十字奉仕団の活動強化
- 5． 青少年赤十字の拡充
- 6． 講習普及事業の推進
- 7． 職員の資質向上のための研修の充実
- 8． 赤十字各施設間の連携強化
- 9． 有功会、評議員に関する取組み

その他管内の事業

- 1． 医療事業（沖縄赤十字病院）
- 2． 社会福祉事業（日赤安謝福祉複合施設）
- 3． 血液事業（沖縄県赤十字血液センター）

支部事業

1. 会員制度の普及促進と財政基盤の強化

日本赤十字社沖縄県支部の活動の財源は、協力会員・会員が納める会費によって賄われており、地区分区や赤十字奉仕団等の協力が必要不可欠である。令和5年度は企業への訪問や、新規の会費協力依頼の実施、また、自治会等への講習会などを通じて広報の強化を行い、赤十字思想の普及及び会員増強に取り組んだ。

(1) 活動資金募集実績

	令和5年度（3月末）	令和4年度（3月末）
目 標 額	143,000,000円	143,000,000円
実 績 額	126,973,126円	134,940,738円
達 成 率	88.8%	94.4%

(2) 赤十字思想の普及及び会員増強

ア 協力会員・会員の加入促進

義援金・救援金寄付者に対する活動資金協力依頼の実施

赤十字有功章等の受章者の増強

イ 地区分区長会議の開催

宮古地区（4/5）、八重山地区（4/6）、中部地区（4/10）、北部地区（4/13）
南部地区（4/14）

ウ 分区長との意見交換

久米島町分区長との意見交換を実施。その後町内40企業訪問（11/9）

エ 副支部長企業訪問

宮古島市地区内の寄付企業・個人等20カ所（1/18）

オ 地区分区職員への協力依頼

地区分区担当課長研修会の実施（4/20）

カ 赤十字会員増強運動月間の実施

①知事メッセージの発表による県民への赤十字運動への参加呼び掛け（5/1）

※同日赤十字会員増強運動月間にかかる活動資金第一号贈呈式開催

②地区分区活動資金募集奉仕団出発式及び自治会（区長会）への説明会の実施
・奉仕団出発式（11地区分区）

5/1	宜野湾市	5/2	うるま市	5/9	沖縄市	5/9	糸満市
5/10	浦添市	5/11	南城市	5/15	八重瀬町	5/16	南風原町
5/22	豊見城市	5/23	石垣市	5/25	那覇市		

・自治会長説明会（12 地区区分）

4/14 うるま市	4/17 南風原町	4/17 読谷村	5/1 名護市 (屋部・中央)
5/1 西原町	5/2 名護 (久志)	5/2 八重瀬町	5/8 糸満市
5/9 嘉手納町	5/11 那覇市 (本庁、市営住宅)	5/12 那覇市 (首里、小禄)	5/15 名護市 (羽地)
5/15 豊見城市	5/16 名護市 (屋我地)	5/17 那覇市 (真和志)	5/22 浦添市
5/22 宮古島市	5/23 宮古島市		

③赤十字地域奉仕団（18 団体）による募集活動（5 月会員増強月間）

④県下市町村にパンフレット・ポスターを配布

⑤月間テレビ CM（本社実施）、ラジオ CM(県支部実施)の放送

⑥地区区分、関係機関での運動月間懸垂幕の掲示

⑦地区区分へ支部専用振込手数料免除用紙の活用依頼

キ 広報活動の強化

- ・全国共通会員誌（クロスコムブック）の活用、ホームページの充実、ダイレクトメール、ニュースリリースなどの発信、新聞広告及びマスコミの活用などにより広報活動を強化
- ・県政広報テレビ番組「うまんちゅ広場」にて日本赤十字社沖縄県支部の事業について放映（5/20、5/27）
- ・琉球放送「ゆうわく時間」にて日本赤十字社沖縄県支部の事業について放映（12/20）
- ・「赤十字ふれあいフェスティバル 2023 in イオンモール沖縄ライカム」の開催
来客者に対して A E D 体験、災害用トイレの模擬体験等を実施（6/17）
- ・F C 琉球ホームゲーム最終戦（タピック県総ひやごんスタジアム）にて
「赤十字ふれあいイベント」を開催し、来場者らへ A E D 体験や子ども救護服着用体験、赤十字車両の展示などを実施（11/25）
- ・防災体験ツアーを自治会住民などを対象に開催
地域住民の「自助」「互助」「共助」と「公助」の連携により、災害への備えを進めることを目的に実施（11 回・141 名参加）

実施日	団体名	市町村	人数
10/12	浦西自治会	浦添市	12
11/2	北区自治会	嘉手納町	10
11/24	名護支部区長会	名護市	7
12/12	許田自主防災会	名護市	10
12/21	市営住宅自治会長会	那覇市	13
1/11	浦城自治会	浦添市	15
2/2	上間まちづくり協議会準備室	那覇市	16
2/8	首里第一民生委員児童委員協議会	那覇市	13
2/21	赤十字奉仕団	北中城村	15
2/29	具志婦人会	那覇市	13
3/14	西区自治会	嘉手納町	17

ク 赤十字寄付金付自動販売機の設置推進 (97台、寄付金額 1,254,124円)

(3) 赤十字会員の表彰

- ア 全国赤十字大会への参加 (5/18 東京明治神宮会館)
沖縄県から久保田照子様が名誉総裁皇后陛下より受章(金色有功章)
- イ 九州八県赤十字大会の開催(11/16 佐賀県 SAGAアリーナ)
社資功労 社長感謝状4名
- ウ 沖縄県赤十字大会の開催 (1/24 浦添市てだこホール)
社資功労の部
厚生労働大臣感謝状4名、社長感謝状22名、金色有功章32名、
銀色有功章92名 計150名
業務功労の部
社長感謝状13名、金色有功章36名、銀色有功章20名、感謝状(10年)43名、
感謝状(5年)56名 感謝状(3年)1名 計169名
合計319名

2. 災害救護事業の強化

救護活動は赤十字活動の原点でもあることから、災害救護組織体制の整備と訓練による強化を図るとともに、義援金の受付と救護看護師の養成を行った。
また、台風第6号災害対応及び能登半島地震へ職員派遣、災害義援金の募集を行った。

(1) 日本赤十字社沖縄県支部救護班要員

- ア 災害対策本部要員(支部施設役職員等) 36人
- イ 血液供給要員(血液センター職員) 20人
- ウ 特殊救護要員(薬剤師、助産師、介護福祉士等) 30人
- エ 救護班要員 30人

医 師	1名	計6名
看 護 師 長	1名	
看 護 師	2名	
主 事	1名	
自動車操作員	1名	

5個班編成
(沖縄赤十字病院)

- オ 救護班補助要員 15人
- カ こころのケア要員 3人
こころのケア指導者 7人
- キ 日赤災害医療コーディネーター(医師) 3人
- ク 日赤災害医療コーディネートスタッフ(医師以外) 7人

(2) 災害救護活動

ア 令和5年台風第6号への対応

台風第6号は、8月1日から8月6日にかけて沖縄県に接近し県内に甚大な被害をもたらした。

日本赤十字社沖縄県支部では、救援物資の配布や職員派遣、義援金を受付。

① 救援物資の配布

配布先	毛布	タオルケット	安眠セット	緊急セット	段ボールベッド
うるま市	—	20枚	20枚	—	—
沖縄市	6枚	18枚	18枚	6セット	—
本部町	—	20枚	15枚	—	—
浦添市	—	51枚	31枚	—	1個
県(在宅酸素患者避難施設)	32枚	30枚	—	—	—

② 職員の派遣

沖縄県からの要請に基づき職員を派遣し、停電により在宅酸素療法が行えない患者を一時的に受け入れる施設の立ち上げ作業を支援

活動日	派遣元	派遣人数	派遣先
8月4日	日本赤十字社沖縄県支部	1名	県(在宅酸素患者避難施設)

③ 資機材の貸出し

台風の影響により、日赤安謝福祉複合施設で8月2日から8月3日にかけて停電が発生。自家発電の燃料も枯渇していたことから、当支部資機材を貸出対応

資機材名	数量	資機材名	数量	資機材名	数量
蓄電池	2台	変換器	2個	発電機	1台
携行缶	1個	ランタン	5個	ヘッドライト	8個
懐中電灯	4個	扇風機	4台		

④ 義援金の受付

沖縄県に義援金配分委員会が設置され、当支部も委員として参加

受付期間	県内受付額	県外受付額	合計額
R5年9月～R5年11月	13,751,694円	50,681,320円	64,433,014円

イ 令和6年能登半島地震への対応

令和6年1月1日に発生した能登半島地震災害により、石川県等に甚大な被害をもたらした。

日本赤十字社沖縄県支部では、日赤災害医療コーディネートチームや救護班として職員を派遣し支援に努めたほか、義援金受付などの対応にあたった。

① 職員の派遣

九州ブロック代表支部（福岡県支部）を中心に調整し、石川県へ職員27名を派遣して、救護活動等を実施

○日赤災害医療コーディネートチーム

班	派遣期間	派遣元	職種	派遣人数	派遣先
第1班	令和6年1月13日～1月20日	沖縄赤十字病院	医師	1名	日本赤十字社 石川県支部
			事務	1名	
		日本赤十字社沖縄県支部	事務	1名	
第2班	令和6年2月24日～3月1日	沖縄赤十字病院	医師	1名	石川県庁
			事務	1名	
		日本赤十字社沖縄県支部	事務	1名	

主な活動内容：災害対策本部等にて日赤の救護活動の統括業務などを実施

- ・情報収集、活動方針の決定
- ・救護班、コーディネートチームの派遣計画の立案
- ・宿泊拠点の調整など、救護班の活動の後方支援等

○救護班

班	派遣期間	派遣元	職種	派遣人数	派遣先
第1班	令和6年1月18日～1月23日	沖縄赤十字病院	医師	1名	七尾市、志賀町 (避難所等)
			看護師	3名	
			事務	2名	
		日本赤十字社沖縄県支部	事務	1名	
第2班	令和6年2月4日～2月9日	沖縄赤十字病院	医師	1名	七尾市 (避難所等)
			看護師	3名	
			事務	2名	
第3班	令和6年2月20日～2月25日	沖縄赤十字病院	医師	2名	七尾市 (避難所等)
			看護師	3名	
			栄養士	1名	
			事務	1名	

主な活動内容：避難所を巡回し、避難者支援などに従事

- ・体調不良者の診療
- ・避難所内のインフラ、生活環境、感染症対策などについて確認し、改善相談等

○その他

救護活動で使用した車両や資機材を撤収するための職員を1名派遣

② こころのケア指導員の派遣

沖縄県からの要請を受け、沖縄県職員を対象としたこころのケア講習会の指導者として、職員1名（沖縄赤十字病院 看護師）を派遣

- ・赤十字講習会（沖縄県主催）（2/13）

③ 義援金の受付

県内の金融機関に専用口座を開設し、受付を実施

受付件数 469 件 金額 143,365,809 円（令和6年3月末現在）

（3）臨時救護班の派遣

ア 神奈川県南方諸地域戦没者追悼式（11/26）

沖縄赤十字病院職員 2名

イ NAHAマラソン (12/3)

日本赤十字社沖縄県支部職員 1名、沖縄赤十字病院職員 9名
沖縄県赤十字血液センター職員 1名

(4) 救護研修・訓練の実施

ア 救護員研修

- ① 日赤沖縄県支部救護員登録研修 (4/3～5/10※e ラーニング研修 支部主催)
参加 20 名
- ② 日赤沖縄県支部救護班研修 (5/19, 6/2 支部主催) 参加 16 名
- ③ こころのケア研修会 (8/24 支部主催) 参加 17 名
- ④ こころのケア指導者養成研修会 (10/11～10/12 本社主催) 参加 1 名
- ⑤ こころのケア指導者フォローアップ研修会 (3/6 本社主催)
※令和 6 年能登地震災害対応のため開催中止
- ⑥ 日赤災害医療コーディネート研修会
(7/8～7/9 本社主催) 参加 1 名
(9/23～9/24 本社主催) 指導スタッフ 1 名
- ⑦ 日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会 (3/20 本社主催)
※令和 6 年能登地震災害対応のため開催中止
- ⑧ 沖縄県災害派遣福祉チーム員登録研修 (12/13 沖縄県災害派遣福祉支援協議会
主催) 参加 1 名

イ 救護員訓練

- ① 日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練 (11/2～11/4 鹿児島県)
日本赤十字社沖縄県支部職員 3 名
- ② 沖縄県総合防災訓練 (10/29 石垣市)
日本赤十字社沖縄県支部職員 2 名、沖縄赤十字病院職員 5 名
- ③ 航空機事故対処訓練 (那覇空港)
 - ・図上訓練(1/11) 沖縄赤十字病院職員 2 名
 - ・実働訓練(2/8) 日本赤十字社沖縄県支部職員 1 名、沖縄赤十字病院職員
5 名
- ④ 九州・沖縄ブロック DMAT 実働訓練 (1/26～1/27 沖縄県)
日本赤十字社沖縄県支部職員 4 名、沖縄赤十字病院 約 75 名

(5) 救護資機材の整備状況

医療 セット	テント		担架	寝台	発電機	発光機	蓄電池	衛星 電話
	エアータント	ドラッシュ						
3	2	1	10	10	1	4	5	6

ア 令和 5 年度配備

- ① 救護用エアータント 1 張 (日赤本社整備により支部に配備)

イ 赤十字災害救護連絡車の配備

赤十字事業をより円滑に取り組むために要望があった市町村に対し配備。
令和 5 年度は宮古島市へ配備 (1/18)

(6) 救援物資の備蓄状況

品 名	毛布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	衣類セット	ブルーシート
数 量	3,281	896	1,415	500	168	212

ア 令和5年度救援物資の配布状況（沖縄県内 火災・自然災害等の被災者）

地区区分名	毛布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	衣類セット	ブルーシート
那覇市	4	—	3	—	—	—
うるま市	10	25	2	28	8	—
沖縄市	1	13	5	12	—	—
宮古島市	9	—	—	—	—	—
西原町	5	4	—	—	—	—
南風原町	6	—	—	1	—	—
本部町	16	15	—	2	—	—
浦添市	—	51	—	31	—	—
南城市	—	1	1	—	1	—
県（在宅酸素 患者避難施設）	32	1	—	—	—	—
合計	83	110	11	74	9	0

(7) 救護看護師の養成

ア 日本赤十字九州国際看護大学に推薦入学を委託、かつ当該学生に奨学金を貸与

① 令和5年度奨学金貸与2名（3年次1名、1年次1名）

※奨学金額：年額2人218万円（沖縄赤十字病院と折半）

② 令和5年度推薦入学試験：応募者なし

イ 日本赤十字九州国際看護大学オープンキャンパスツアー（10/15 高校生5名参加）

(8) 義援金（国内）の受付状況（沖縄県支部）

受 付 名	受 付 期 間	件 数	金額（円）
令和5年5月能登地方地震災害義援金	R5年5月～R5年9月	3件	43,525
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	R5年7月～R5年12月	5件	111,726
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	R5年7月～R6年3月	5件	127,235
令和5年台風第6号災害義援金	R5年9月～R5年11月	100件	13,751,694
令和5年台風第13号災害義援金	R5年9月～R5年12月	4件	181,427
令和6年能登半島地震災害義援金	R6年1月～R6年3月	469件	143,365,809

(9) 赤十字防災ボランティアの養成

ア 防災ボランティア研修

① 災害ボランティアセンター運営者研修会（3/7 沖縄県社協主催） 参加1名

イ 関係機関との連携

① 災害時における災害ボランティアセンター運営に関する関係機関連絡会
（7/19 沖縄県社協主催） 参加1名

② 災害時外国人支援サポータースキルアップセミナー
（11/11 沖縄県国際交流・人材育成財団主催） 講師として参加3名

(10) 地域における防災対応力の向上

ア 赤十字防災セミナーの実施

実施回数 28回 受講者数 659人

災害の備え（講義形式プログラム）

	受講対象者・団体名	実施日	参加者数		受講対象者・団体名	実施日	参加者数
1	南風原町赤十字奉仕団	9/29	10人	5	株式会社オカノ	2/21	20人
2	糸満市赤十字奉仕団、糸満市職員	11/6	20人	6	小さな結婚式沖縄イル・ド・レ店	3/6	13人
3	琉球セメント株式会社	12/18	33人	7	那覇市地域包括支援センター高良	3/7	12人
4	沖縄県煎茶道協会	2/11	17人				

炊出し訓練（併せて災害の備えを実施）

	受講対象者・団体名	実施日	参加者数		受講対象者・団体名	実施日	参加者数
1	糸満中学校	5/12	26人	3	安謝児童館（防災プロジェクト）	8/19	28人
2	安謝児童館（防災プロジェクト）	5/27	41人	4	災害時外国人支援サポーター等	11/11	30人

家具安全対策ゲーム（ペアワーク形式プログラム）

	受講対象者・団体名	実施日	参加者数		受講対象者・団体名	実施日	参加者数
1	日本赤十字社沖縄県支部（職員向け）	4/12	10人	3	仙台育英学園高等学校	5/23	18人
2	地区区分赤十字担当者研修会	4/20	27人	4	おやこ防災教室	8/18	30人

ひなんじょたいけん（グループワーク形式プログラム）※HUG含む

	受講対象者・団体名	実施日	参加者数		受講対象者・団体名	実施日	参加者数
1	安謝児童館（職員向け）	6/20	4人	7	中頭地区小中学校事務職員	10/20	30人
2	うるま市役所	6/27	37人	8	ソニービジネスオペレーションズ㈱	11/21	19人
3	安謝児童館（防災プロジェクト）	7/8	15人	9	ソニービジネスオペレーションズ㈱	12/7	17人
4	嘉手納高校	8/23	40人	10	漢那地区住民	12/10	35人
5	読谷村教育委員会、地域住民	10/9	10人	11	うるま市役所	12/19	35人
6	日本赤十字社沖縄県支部（職員向け）	10/18	10人				

災害図上訓練（グループワーク形式プログラム）

	受講対象者・団体名	実施日	参加者数		受講対象者・団体名	実施日	参加者数
1	那覇市真和志地区民生委員児童委員	8/8	50人	2	松島地区自治会（防災プロジェクト）	2/3	22人

イ 防災教育事業指導者の養成

- ① 防災教育事業指導者養成研修会（10/31～11/1 宮崎県支部主催）
・指導スタッフとして職員1名派遣
- ② 防災教育事業主任指導者研修（4/28 本社主催）
参加者2名（職員1名、ボランティア1名）
- ③ 防災教育事業指導者フォローアップ研修（9/7～9/8 本社主催）
指導スタッフ1名、参加者2名（職員1名、ボランティア1名）

3. 国際救援活動の推進

日本赤十字社では、世界各地で発生する紛争犠牲者及び災害被災者の支援のために、国際救援・開発協力要員の養成及び派遣を行っている。

昨年2月から6月にかけては、パレスチナ赤新月社医療支援事業へ、沖縄赤十字病院看護師の派遣を実施した。

また、海外での災害、紛争などの状況を県民へ広く周知し、救援金の受付を実施した。12月に行われたNHK海外たすけあい街頭募金では、JRC加盟校、赤十字有功会、赤十字地域奉仕団ほか、多くの県民から協力を得られた。

国際人道法普及について、各職員研修のプログラム内にて実施できたが、一般普及にまで至らなかった。また、本社主催の国際人道法普及セミナーに支部職員が参加した。

(1) 国際救援・開発協力要員の養成、派遣

ア パレスチナ赤新月社医療支援事業への職員派遣

派遣職員：沖縄赤十字病院 看護師 下地 美咲

派遣期間：令和5年2月1日から同年6月21日

派遣先：レバノン（パレスチナ赤新月社 サファッド病院）

職務内容：現地医療スタッフへ技術や知識の提供、支援

(2) 救援金（海外）の受付状況（沖縄県支部）

ア 救援金（海外）

受付名	受付期間	件数	金額（円）
ウクライナ人道危機救援金	R5年4月～R6年3月	2件	890,528
2023年トルコ・シリア地震救援金	R5年4月～R5年5月	12件	5,881,555
2023年アメリカ・ハワイ救援金	R5年8月～R5年10月	13件	8,320,455
2023年モロッコ地震救援金	R5年9月～R5年11月	8件	167,310
2023年リビア洪水救援金	R5年9月～R5年11月	4件	106,936
2023年アフガニスタン地震救援金	R5年10月～R5年12月	7件	247,786
イスラエル・ガザ人道危機救援金	R5年10月～R6年3月	5件	152,497

イ NHK海外たすけあいキャンペーン（12/1～12/25）

救援金県内受付状況 1,789,371円

(3) 国際人道法の普及

ア 職員向け

日付	対象	人数
9/28	支部施設合同中堅職員研修会参加者	18名
3/26	合同新規採用職員研修会参加者	44名

イ 赤十字奉仕団基礎研修会参加者（10/13） 20名

ウ 本社主催国際人道法普及セミナー（2/15～2/16） 支部職員2名参加

4. 赤十字奉仕団の活動強化

赤十字奉仕団は、赤十字活動において重要な役割を担っていることから、赤十字概論等の基礎研修及び各奉仕団での救急法や防災セミナー等を実施し、随時、奉仕団からの各種相談に対応した。

また、国内義援金及び海外救援金等の街頭募金活動等への取り組みとともに、その支援を行った。

- (1) 奉仕団支部委員会の開催 2回(10/23、3/12)
※台風6号接近により第1回(7月)は中止
- (2) 地域赤十字奉仕団等の育成24団体
地域奉仕団(19) 特殊奉仕団(4) 青年奉仕団(1)
(休団中→地域:嘉手納町奉仕団、特殊:アマチュア無線奉仕団、バイクレスキュー奉仕団含)
※赤十字飛行隊沖縄支隊(本社直轄)
- (3) 地域奉仕団による奉仕活動
 - ア 赤十字病院での受付案内
 - イ 移動献血場所での受付案内
 - ウ 各地域での定例活動や活動資金募集(企業・個人訪問)、海外たすけあい街頭募金活動の実施
 - エ 愛の心もちつき会(12/16開催 沖縄中央育成園) 約100名参加
- (4) 奉仕団基礎研修会(10/13)
9奉仕団より20名参加

5. 青少年赤十字の拡充

青少年赤十字は、次代を担う青少年が、赤十字の「人道・博愛」の精神を理解し、日常生活の中での実践活動を通して、思いやりのある心豊かな青少年に成長することを目指して、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校の中に組織され活動を行っている。

青少年赤十字加盟校の状況

	加盟校
保育園・幼稚園	5校
小学校	72校
中学校	70校
高校	50校
合計	197校

(1) 青少年赤十字賛助奉仕団による奉仕活動

ア 青少年赤十字加盟登録式への参加

阿嘉小中学校	4/13	28名参加
慶留間小中学校	4/13	10名参加
渡慶次小学校	4/20	87名参加
読谷小学校	4/26	115名参加
西崎中学校	4/26	201名参加
古堅小学校	4/27	85名参加
古堅中学校	4/28	14名参加
喜名小学校	5/ 9	84名参加
読谷中学校	5/10	校長、教頭、担当教員のみ参加
古堅南小学校	5/12	96名参加

(2) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター

ア 夏季 (8/2～8/4 糸満青少年の家) ※台風6号接近のため中止

イ 春季 (3/28～3/29 玉城青少年の家) 50名参加

(3) 第40回沖縄県青少年赤十字大会 (10/27)

沖縄県総合福祉センター ゆいホール 140名参加

(4) 青少年赤十字防災教育 出前講座

ア 糸満中学校3学年海洋教育「防災キャンプ」(5/12)

災害時炊き出し訓練 30名参加

イ 那覇教育事務所 中堅教諭等資質向上研修会 (8/15)

『まもるいのち ひろめるぼうさい』(小中高校生向け教材) 23名参加

ウ 嘉手納高校防災セミナー(8/23)

HUG(避難所運営ゲーム) 40名参加

エ 大謝名小学校4学年防災教室(9/14)

『まもるいのち ひろめるぼうさい』(小中高生向け教材) 90名参加

オ 中頭地区小中学校事務職員対象防災セミナー(10/20)

ひなんじょたいけん(赤十字版HUG) 30名参加

カ 浦添商業高校防災学習(3/14)

災害時炊き出し訓練、ひなんじょたいけん、救急法 41名参加

6. 講習普及事業の推進

交通事故、水難事故、高齢者を抱える家庭内での緊急時等に、身近にいる人が行える応急措置としての救助技術を修得してもらうことを目的とした各種講習会を開催した。

新型コロナウイルス感染症の対策として3密防止の徹底に配慮しながらも、救急法や水上安全法など、社会ニーズの高い資格が取得できる一般対象の講習を再開した。また、昨年に引き続き流行拡大期に継続して実施できるオンラインでの短期講習プログラムを実施した。

(1) 講習会実施状況

令和6年3月末現在

講習種別		実施回数 (回)	受講者数 (人)
救 急 法	基礎講習	28	673
	救急員養成講習	8	185
	短期講習	49	1,629
	合 計	85	2,487
水上安全法	救助員養成講習Ⅰ	7	93
	救助員養成講習Ⅱ	2	20
	短期講習	5	172
	合 計	14	285
健康生活支援講習	支援員養成講習	0	0
	短期講習 災害時生活支援講習	4	41
	合 計	4	41
幼児安全法	支援員養成講習	0	0
	短期講習	5	122
	合 計	5	122
総 合 計		108	2,935

(2) 講習指導員養成実績

赤十字救急法指導員 22名

7. 職員の資質向上のための研修の充実

各階層の職員が、それぞれの果たす役割を理解するとともに、その役割を果たすためのスキルを身に付け、事業の円滑な遂行が行える人材の育成を目的として研修を実施している。令和5年度は、対面形式での研修を再開させ、職員同士のコミュニケーションの機会とすることができた。

- (1) 支部施設合同中堅職員研修会の実施（対象：概ね3年以上勤務した職員）
（9/28 参加者18名）
- (2) 合同新規採用職員研修会の実施（対象：令和5年度新規採用職員等）（3/26～3/27）
42名参加

8. 赤十字各施設間の連携強化

支部・施設間、そして事業間の連携を通じた日本赤十字社としての「グループ力」を発揮し、各事業の質の向上や効率化を図るとともに、相乗効果によって実現できる新たな取組みを積極的に検討・展開していく。また、日本赤十字社第6ブロック理事・事務局長会議を沖縄県で開催し各県支部の理事・事務局長と意見交換を行った。

- (1) 各施設に救護要員を配置しており、防災訓練については各施設救護要員を動員して参加し、互いの連携を強化
- (2) 支部施設管理会議を定例開催し、各施設長が運営状況の確認、意見交換を行い、施設間の連携を強化（月に1回開催）
- (3) 支部施設総務課長連絡会議を定例開催し、情報共有を図り施設間の連携を強化（月に1回開催）
- (4) 支部施設合同で職員研修を開催し、各施設職員間の連携を強化
※開催実績については、前項参照
- (5) 令和5年度日本赤十字社第6ブロック理事・事務局長会議
 - 1. 日 時 令和5年9月7日（木）～8日（金）
 - 2. 議 題 日本赤十字社と企業のCSR活動について
 - 3. 講 演 講演者 日本赤十字社広報室長 岡山晃久
題 目 「日本赤十字社の広報戦略について」

9. 有功会、評議員に関する取組み

(1) 有功会

沖縄県赤十字有功会は、日本赤十字社有功章等を受章された方々により、平成2年12月に結成された団体。赤十字思想の普及および事業の推進を目的とし、赤十字事業の支援活動を行っている。

沖縄県赤十字有功会役員数 25 名。（令和 6 年 3 月現在）

ア 役員会

1. 日 時 令和 5 年 6 月 28 日

2. 付議事項

第 1 号議案 令和 4 年度事業実績報告及び歳入歳出決算報告について

第 2 号議案 令和 5 年度事業計画（案）及び歳入歳出予算（案）について

第 3 号議案 役員の選出について（案）

イ 総 会

1. 日 時 令和 5 年 7 月 13 日

2. 付議事項

第 1 号議案 令和 4 年度事業実績報告及び歳入歳出決算報告について

第 2 号議案 令和 5 年度事業計画（案）及び歳入歳出予算（案）について

第 3 号議案 役員の選出について（案）

ウ 主な活動

- ・ 日本赤十字社沖縄県支部への活動資金協力
- ・ 「愛の血液助け合い運動」月間の広報懸垂幕の贈呈（7/1～7/31）
- ・ 県支部への車両贈呈（9/26）
- ・ 沖縄県青少年赤十字大会で記念品贈呈（10/27）
- ・ 日赤紺綬有功会会長協議会総会（広島県）への参加（10/12）
- ・ NHK海外たすけあい街頭募金活動への参加（12/23）
- ・ 県内児童養護施設へ絵本贈呈（3/8）

(2) 評議員会

日本赤十字社沖縄県支部の運営に関する重要事項を審議するための評議員会を以下のとおり実施した。議案は第 93 回、第 94 回ともに、評議員全員の賛成を得て、原案の通り承認された。

評議員数 21 名（令和 6 年 3 月現在）

ア 第93回評議員会

1. 日 時 令和5年6月6日
2. 会 場 日本赤十字社沖縄県支部 3階会議室
3. 参 加 者 評議員21名中 出7名（代理出席含む）、委任状14名
4. 付議事項
 - 第1号議案 令和4年度 支部事務局事業実績及び一般会計歳入歳出決算について
 - 第2号議案 令和4年度 沖縄赤十字病院事業実績及び医療施設特別会計歳入歳出決算について
 - 第3号議案 令和4年度 日赤安謝福祉複合施設事業実績及び社会福祉施設特別会計歳入歳出決算について
 - 第4号議案 令和4年度 沖縄県赤十字血液センター事業実績について

イ 第94回評議員会

1. 日 時 令和6年2月13日
2. 会 場 日本赤十字社沖縄県支部 3階会議室
3. 参 加 者 評議員21名中 出席8名（代理出席含む）、委任状13名
4. 付議事項
 - 第1号議案 令和6年度 支部事務局事業計画及び一般会計歳入歳出予算（案）について
 - 第2号議案 令和6年度 沖縄赤十字病院事業計画及び医療施設特別会計歳入歳出予算（案）について
 - 第3号議案 令和6年度 日赤安謝福祉複合施設事業計画及び社会福祉施設特別会計歳入歳出予算（案）について
 - 第4号議案 令和6年度 沖縄県赤十字血液センター事業計画について